

飛承劇場vol.19

正統派

T H E E N D O F A S I A

作・演出 泊 篤志

久ミックスホールESTA(北九州) 2000.11.17-19

AI-HALL(伊丹) 2001.2.3-4

シアター1010(東京) 2001.2.9-11

『ジ エンド オブ エイジア』の噂は、初演当時から耳にしていた、だから今回の東京公演は、見たかった公演が向こうから来てくれるという嬉しさがある。関西公演は初めてとのことだから、関西の演劇ファンにも同様の方がいるだろう。だが、それとは別に、『生態系カズン』『IRON』と多少毛色の異なる作品を観てきた東京の演劇ファンが、そろそろ泊篤志は何者であるかを結論づけようとする頃なのだが、さていったいどの方向で、この得体の知れない劇作家が結論づけられるのか、泊篤志自身はどの方向で結論づけられたいのか、あるいは結論を先延ばしにしたいのか、そこら辺も他人事ながら興味をそそるところなのだ。

(青年団／平田オリザ)

泊篤志の右目は超クローズアップで、左目は超ロングショットである。とにかく、意識の遠近法がとてもヘンだ。『エイジア』では、カメラは引きに引いて、フレームにヒマラヤを入れているのに、レンズはオリエンタリズムの毛穴を接写している。どこともしれない辺境から日本の姿をあぶりだす泊ワールドの原型！

(演劇評論家／梁木靖弘)

エイジア

飛ぶ劇場 vol.19 ジ エンド オブ エイジア

スタッフ

作・演出／泊 篤志
舞台監督／谷瀬未紀(NEO)
舞台監督補／時佐 勝(SAM)
美術・造形製作／橋本 茜
衣装／内山ナオミ(工房MOMO)
照明／吉永勝義(東京舞台照明)
音響／泊 達夫
装置／寺田 剛
小道具／門司智美
振付／つかのみき
調理／奥武宏起
チラシデザイン／
富田友紀子・たにせみき
韓国語翻訳・指導／梁 承烈
制作／花田優子・黒崎あかね
劇的企画NEO

出演

寺田剛史
つかのみき
北村功治
橋本 茜
桑島寿彦
北村加奈子
泊 達夫
門司智美
黒崎あかね
奥武宏起
藤尾加代子
武石守正(うずめ劇場)

伊丹公演

関西初登場！

AI・HALLリージョナルシアター

会 場 **AI・HALL**
TEL. 0727-83-2000 (JR伊丹駅前)
開 演 **2月3日(土)19:00**
4日(日)14:00
開場は開演の30分前

一般前売 2,500円(当日3,000円)
学生前売 2,000円(当日2,500円)
※全席自由(日時指定／入場整理番号つき)
※学生前売は劇場予約のみ TEL. 0727-82-2000



チケットは以下で発売中
・チケットぴあ(ファミリーマート) Pコード: 403-492
・劇場／劇団予約(チケットは当日精算になります)

主催: 伊丹市／(財)伊丹市文化振興財団

●オフシアタートーク 泊篤志×岩崎正裕(199Q太陽族)
4日(日)公演終了後開催(初日の半券でもご入場できます)

東京公演

98年の大世紀末演劇展、99年の東京フェス(芸術劇場)に続く3度目。

会 場 **シアターラム**

開 演 **2月9日(金)19:00**
10日(土)17:00
11日(日)14:00
開場は開演の30分前

TEL. 03-5432-1526



一般指定前売 2,500円(当日3,000円)
学生指定前売 2,000円(当日2,500円)

チケットは以下で発売中
・チケットぴあ(ファミリーマート) Pコード: 310-986
・くりっくチケットセンター TEL. 03-5432-1515
・劇団予約(チケットは当日精算になります)
※座席表は下記劇団サイトでご覧になれます。



共催: くりっく 世田谷文化生活情報センター
北九州地域舞台芸術環境振興事業実行委員会
協賛: アサヒビール株式会社

1991年3月、湾岸戦争の真っ只中、僕は標高4000mのヒマラヤ山中に居た。僕が慣れない雪山と格闘している時、遠く離れた中東では、アメリカ軍が爆撃を続けていた。そして、山で聞いた戦争終結の話。「フセインが捕まったらしい」「フセインの替え玉が何人も居たらしい」そんな適当な噂が外国人トレッカーの間で広まっていた。そして、山を降り、首都カトマンズで見た「NEWSWEEK」誌の表紙の誇らしげな「VICTORY!」の文字。世界は激しく動いたが、ヒマラヤはビックリとも動かなかった。けれども、僕の中では何かが少し動いた、気がした。

1995年、そんなドキュメンタリーな部分を作品化した初演。今回、2000年から2001年へと世紀を過ぎ、九州から関西・東京へと日本を縦断しての再演は「アジアの果て」を描いた作品に相応しく、嬉しい。キーワードは「現代の寓話」だ。

〈泊 篤志〉

Profile

- 1987年結成。北九州市を本拠地に、東京・愛知・愛媛・富山などへも出向いている。
- 1993年、現代表の泊が東京からリターンし、作・演出として劇団の方向性を舵取りした結果、ドライエの明るい文芸路線と「集団創作」「ダンスパフォーマンス」等の別冊路線の2本柱で進んでいる。
- 92年には『イムズ芝居』最優秀劇団に選出され、イムズホールの舞台を踏む。
- 97年、泊篤志が作品『生態系カズン』で第3回日本劇作家協会新人戯曲賞を受賞。
- 99年の書き下ろし作品『IRON』は第44回岸田國士戯曲賞の最終候補作となった。

ご予約・お問合せ 制作 **劇的企画NEO** TEL&FAX. **093-965-1555**
E-mail dp-neo@pc.highway.ne.jp

劇団Webサイト <http://ww2.tiki.ne.jp/~tobugeki/>

「人分大
明確か
にらは
伝な希
わい望
つまが
てまる
くる悠
るきの
舞てだ
台いか
だくな
ったし
なか
いなか
こと
が

毎日新聞記者・高原克行氏の初演劇評
(『シアター』96年2月号より)